

PLUS CYCLE ケースレポート

～運動機能の低下、認知症の亢進を認めたシニア犬の1例～

シニア期の犬に PLUS CYCLE®を使用し、運動機能の低下、および、認知症の亢進がイメージできた1例についてご紹介します。

■要旨

シニア犬の PLUS CYCLE データより、活動量・ジャンプ回数の減少から運動機能の低下を、さらに、睡眠障害様の睡眠時間の異常から認知症症状の亢進をイメージできた。

■対象動物

犬（ヨークシャテリア）、2003年6月生まれ（データ取得時：18歳）、去勢済みオス

■既往症・症状・処置

- ・2014年7月～10月：椎間板ヘルニアを発症しリハビリ実施
- ・2018年8月：椎間板ヘルニアによるふらつきを主訴に、リハビリを再開
- ・てんかん、白内障の治療中
- ・2020年9月～夜徘徊するとのことで認知症のサプリメント服用中
- ・2020年10月2日より PLUS CYCLE 装着開始
 - 徐々に自力歩行が難しくなり、2021年5月頃からほぼ寝たきりに移行
 - ハーネス補助や車いすを使用すると短時間だが歩行する様子が見られた

■PLUS CYCLE の利用

2020年10月2日から PLUS CYCLE を首輪に装着しデータ取得を実施、2022年2月8日までデータ取得を継続した。

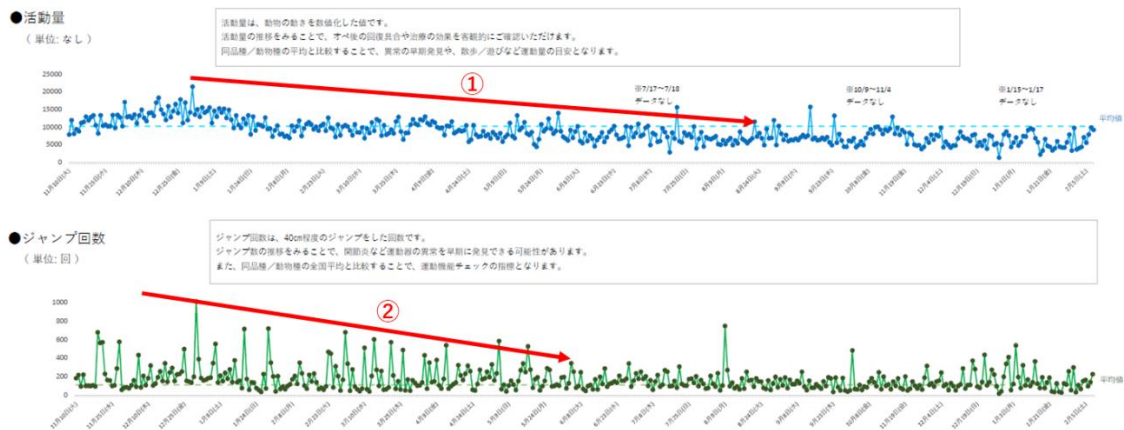
■結果

PLUS CYCLE データより、対象犬の状態について以下のことがイメージできた。

グラフについては、PLUS CYCLE レポートより抜粋し、各データにおける平均値は対象犬と同品種（ヨークシャテリア）の平均値を示している。

活動量・ジャンプ回数の推移

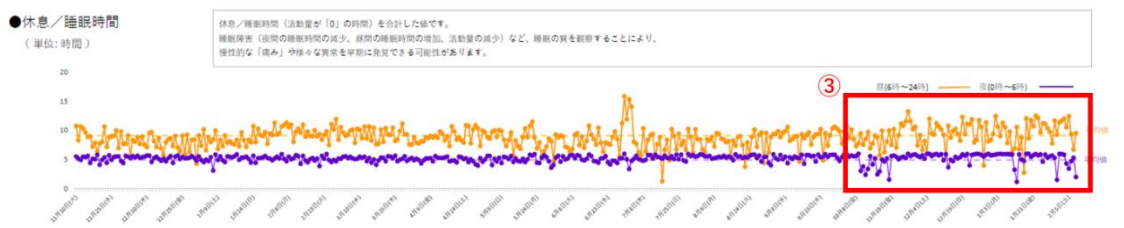
対象犬の活動量・ジャンプ回数の推移を確認した結果、臨床担当者の「高齢ということもあり、徐々に自力歩行が難しくなり、2021年5月頃からほぼ寝たきりに移行している。」というコメントを、活動量・ジャンプ回数が徐々に減少していることから定量的に確認することができた（赤矢印①②）。



睡眠/休息時間の変化

対象犬の睡眠/休息時間の変化を確認した結果、2021年10月中旬から夜間の睡眠時間の低下、且つ、昼間の睡眠時間のバラツキ増加があり、睡眠障害様のデータが認められた（赤枠③）。

対象犬が認知症サプリメントを服用していることから、当該期間における認知症症状について臨床担当者に確認したところ「認知症が亢進傾向にあった」とコメントがあり、認知症の亢進について睡眠時間の変化からイメージすることができた。



■まとめ

今回、運動機能の低下、認知症の亢進を認めたシニア犬の PLUS CYCLE データについて、以下の特徴が認められた。

- ✓ 臨床所見「徐々に自力歩行が難しくなり、2021年5月頃からほぼ寝たきりに移行している。」というコメントを、活動量・ジャンプ回数の推移から定量的にイメージすることができた。
- ✓ 睡眠障害様の睡眠時間の変化（夜間の睡眠時間の低下、且つ、昼間の睡眠時間のバラツキ増加）から、認知症の亢進をイメージすることができた。

■臨床担当者のコメント

帝京科学大学 生命環境学部アニマルサイエンス学科 アニマルケアセンター
助教・動物看護師 川村 和美先生

〈コメント〉

PLUS CYCLE を用いた高齢犬の長期経過観察を行った。運動機能低下に伴い、活動量およびジャンプ回数も低下しており状態の変化ともリンクしていた。認知機能の変化についても睡眠時間の低下からイメージできた。飼い主さまの稟告と合わせて確認することで症状の変化にいち早く対応することができるのではないだろうか。何より寝たきり状態の小型犬においても負担なく装着・維持できたことが飼い主の安心につながったと思われる。

■PLUS CYCLE スタッフより一言

本症例では、運動機能の低下、および、認知機能の変化を PLUS CYCLE データよりイメージすることができました。飼主様の稟告と共に PLUS CYCLE データを用いることにより、シニア期特有の変化を早期発見・対応できる可能性が示唆され、

以上